

要約

乳用初産牛に対し産道が開ききる前に無理にけん引介助を行うと、出産後の初回排卵が遅れる他、受胎率が低下することがわかりました。

研究成果の概要

1 背景・目的

青森県の乳用牛の平均寿命は他県に比べ短く、その対策が求められています。

分娩時に子牛を引きずり出すけん引介助を常に実施している酪農家ほど、乳用初産牛の連産性が低い傾向にありました。

そこで、無理なけん引介助が乳用初産牛にどのような影響を与えているのか調査しました。

2 内容

- 十分に産道が開ききる前（二次破水直後）にけん引介助を行った牛は、初回排卵が遅く、分娩間隔が長くなりました（図1、2）。
- また、受胎率が低下し、2回目の分娩ができない可能性が示唆されました（図3）。

3 活用等

- 無理なけん引介助を行わないことで、乳用初産牛の主な廃用原因の一つである繁殖障害（不妊）発症予防と乳用牛の平均寿命延伸が期待できます。
- リーフレットを作成、県内酪農家へ配布し、乳用初産牛への無理なけん引介助の危険性を周知しました。

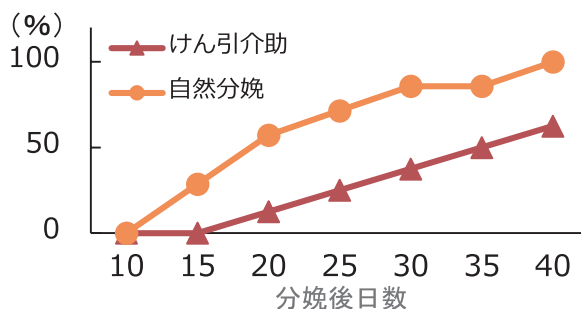


図1 初回排卵率の推移

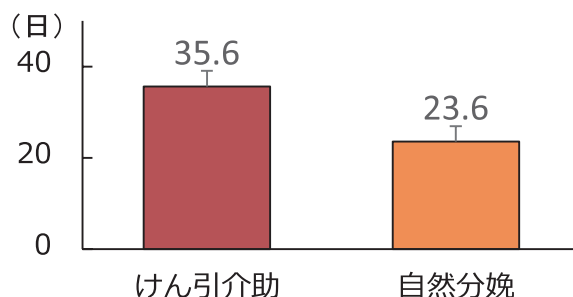


図2 初回排卵日数

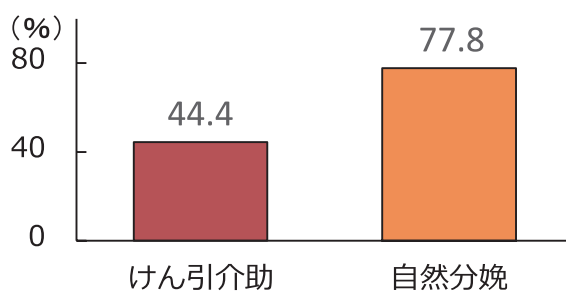


図3 3回目までの受胎率

関連情報

- 二次破水後、2時間経過しても出産が進まない場合は、胎児の蹄や舌を触り反応を確認し、反応が弱い場合はけん引介助を実施してください。
- けん引介助を行うべきかどうかの判断が難しいときは最寄りの獣医師に相談しましょう。